

大学生等による地域課題の解決支援(萩地域)

《萩市小川地区その③》

1 実施主体

平山台果樹生産組合

2 連携大学

広島修道大学三浦、富川ゼミ

3 第3回支援活動：平成26年2月10日(月)

4 参加者

地元組合員等 13人、大学生 5人

5 支援活動(研修会)の概要

(1) 地元あるきツアープラン支援研修について

《富川教授による説明》

- ドイツのグリーン・ツーリズムは、農地を守る、環境を守るという発想である。
- 広い視野からグリーン・ツーリズムを捉え、受け入れ側に負担にならないようにすべきである。
- 1回のイベントだけだと、収入につながらないことが多い。なぜ受け入れるのか、何を「目的」にやるのかきちっと考えることが重要である。経済効果につながらないと続かない。

(2) 意見交換

① 集客すべき「ターゲット」の考え方について

三浦ゼミ生が考えたプランにより、廿日市商店街で1月11日にアンケート調査を実施した。

○ 主な意見

- ・ 家族で行く。・ 伝統食が良い。・ 果樹園のもぎとりに興味がある。・ 押し花など地域の人と一緒にやる。・ 田万川の名前は知られていない。



② 平山台の資源の総点検

《強み》

- ・ 品種が多い・人柄が良い・食(伝統食)が多い・果樹園がコンパクト
- ・ 地域に歴史がある、史跡がある・園路が整備、平坦、歩きやすい

《活用すべき資源は、もっと改善すべき点は》

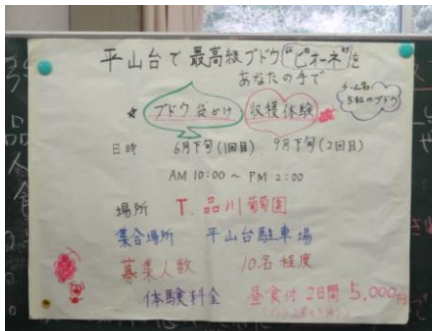
- ・ 山や川の活用・廃園の活用・道の清掃、環境整備・看板設置・「ワザワザ来る」という考え方に対し「ついでに来る」、萩、津和野など周辺を巻き込む。

(3) 地元生産者によるプランの発表

《ぶどうグループ》

《ももグループ》

《りんごグループ》



(4) 富川教授による講評

- ・ 観光は女性が引っ張る。体験が入っていたほうが良い。
- ・ 「食べる」について、オリジナル、「ここでしか食べれない」ものが良い。
- ・ 学「ぶ」、知的好奇心を刺激するのもよい。生産者の皆さんしか知らないことを説明する。「受粉」体験も良い。
- ・ 「交流する」ことが大事、「見る、食べる」はどこも同じでも、「人」に注目することも大事である。
- ・ お土産が重要、買って帰る、直販などの工夫をすべきである。